

みみよい

なお知らせ!

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

新たに2名が手話通訳士に合格され、県内の手話通訳士が6名になったことから、**日本手話通訳士協会 佐賀県支部**が設立されました。(5月17日)

(一社)日本手話通訳士協会 小椋英子会長から、理事会の承認が伝達された旨の報告とあいさつがありました。

佐賀県支部の設立は19番目、やっと半分だが他の地域へ大きな影響を与える。平成元年に手話通訳士制度がスタートして30年。現在、3,000人超であるが足りない。聴覚障害者の社会参加や権利保障のためにもっと必要である。しかし、一方で高齢化し、若い人の参入も少ない状況にあります。

福岡の梅崎支部長は、九州はひとつの理念のもと、今後協力し合っていきたい。福岡は3ヶタ、佐賀は2ヶタを目指していこう。

長崎の長野支部長は、佐賀とは共同の学習会を行ってきた。今後とも連携を密にしていきたいと思います。

佐賀県障害福祉課 岸川課長から、手話通訳士や手話通訳者の養成等について、大いに期待されている旨のことばがありました。



聴こえのセミナー

小城原 直さんの
補聴器体験談 5月30日



私は補聴器を使っています。平成26年10月ごろから耳が遠くなった感じがしたので、耳鼻咽喉科を受診しましたが、加齢ですと言われた。73歳のころです。解決のためのアドバイスをもらいに行ったが素っ気なかった。そこでサポートセンターで測定してもらった。母も70歳過ぎから耳かけ補聴器をつけていた。私は耳が遠いのを知られたくないし、言いたくありません。平成28年4月に佐賀市自治会協議会の会長になったり、行政委員会の委員を20ばかりやることになって意識が変わってきた。

一番背中を押してくれたのが妻の一言。「目が悪くなったら眼鏡をかけるでしょう。耳が悪くなったら補聴器をつけるのは当然よ」と。しかし、すぐには補聴器装用と言えなかった。「私つけています」というまでに5か月かかった。非常に勇気がいった。しかし、他の委員会では未だに言っていない。補聴器をつけるときちゃんと聴こえ、質問にも的確にこたえられるので、装用してよかったと思う。

今年9月23日が国際手話デーの第1回目にあたることから、ぜひその日が手話にとってお祝い日になるように要望しました。

県議会各派の代表からなる検討委員会(5名)と聴覚障害者協会、佐賀県聴覚障害者サポートセンターから、聴覚障害者が困ることについて具体的な事例、情報支援者の養成状況と人づくりの難しさなどを説明しました。当方からは、条例の考え方として、聴覚障害者サポートセンターの特異な取り組みを踏まえ「聴こえの共生社会」を理念として、ろう者及び難聴者に限定した手話言語をベースとしつつ、要約筆記等の文字情報支援を盛り込んだ条例を提起しました。

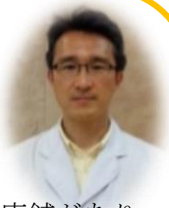
「手話言語条例」制定に向けて 意見交換会
佐賀県議会政策条例検討委員会 5月29日



この後、ソノヴァ・ジャパン(株)高田利也認定補聴器技能者から難聴と聴覚ケアについて基礎知識から最新情報まで講演があった。その中で、難聴と認知症との関連については、難聴＝認知症ではない。いろいろな要因があるが、難聴によるコミュニケーション障害から会合や旅行などにかく出不精になる。そのことから社会的な孤立をうみ、認知症を促進することになる。早い時期から聞こえるようにすることが補聴器の仕事ですとの見解が示されました。

シリーズ (7) 山口相談医のひと言コメント

補聴器購入のお店選びについて



補 聴器の購入にあたっては、いろいろな店舗があり、どこにしたらいいか迷うこともあると思います。その時に注目してほしいのが「日本補聴器販売店協会」による「販売店協会加盟店」と「テクノイド協会」による「認定補聴器専門店」です。ここに加盟している店舗や認定された店舗は、技術やアフターケアについて、一定レベル以上であることが、十分に期待されることとなります。また、これに加えて「認定技能士」という制度もあり、「厚生労働省」「テクノイド協会」のカリキュラムを受講した人、つまり、補聴器のエキスパートです。

補 聴器販売に関する国民生活センターへの苦情が年々増加しているという由々しき状況があります。これらの制度は、その対策として、補聴器業界と「厚生労働省」「日本耳鼻咽喉科学会」などが協力して生まれた制度です。

も し「補聴器を・・・」という時には、「認定店」「加盟店」そしてそこに「認定技能士」がいることを確認してみてください。それ以外の店舗がダメであるということではありませんが、よりしっかりした裏付けのある店舗であると言えます。ぜひ参考にしてください。

龍谷こども園

言葉を吸収する時期の聴児へのモデルケースとして、龍谷こども園の4、5歳児20名×2クラスの手話学習が5月16日から始まった。こども園生活で見聞する「ありがとう」などの単語に園児は興味津々で覚えも早い。毎月2回の学習が来年2月まで続きます。



巡回聴こえの相談 時間はいずれも10時から15時

伊万里：6月26日(火) 伊万里市役所1階面接室
三 瀬：7月25日(水) 三瀬支所内会議室
馬渡島：8月2日(木) 馬渡島診療所

編集後記：犬型ロボット、意外にかわいいです



聴覚障害者を雇用している 企業情報交換会 (6月5日)

7社の人事労務担当課長が参加して、4回目を行いました。ゲストは、敬徳高校の**稲田繁生前理事長**の13年間に渡る先生・生徒の改造劇物語を熱く話されました。以下、その要約です。

・**倫理指数**=やっていいこと、やっていけないこと。善悪の区別がつく人間を育てる=日本一を目指す。

・**社会人基礎力**=休む、遅れる、間違う、忘れることと、普通の漢字が読める・書ける、返事とあいさつができる、自分の考えが言える、日常敬語が使えることを身につける。

卒業式の日には進路が全員決定していることを目標とした。自ら、進路指導顧問の肩書で人脈を生かして進路を開拓。さらに、今年の県の高校総体では、卓球団体で男女とも優勝、剣道は準優勝と部活での活躍が生徒、先生とも大きな自信となり、頑張った結果もついてきました。

これからの企業の人手不足は目に見えており、障害者も含めて出口戦略を明確にした職業教育が必要です。



第1回運営委員会 5月17日

30年度第1回運営委員会が開催され、29年度の事業実施状況、センター利用状況、30年度事業計画について審議された。

質疑では、全国統一試験の今後の見通し、不妊問題、ろう者と認知症との関係、ろう学校と中学校、高校との交流、新規教職員への手話研修、国体・全国障害者スポーツ大会の情報支援ボランティア確保の見通しなどについての質問があり、それぞれ答弁がありました。次回は11月の予定。

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12 (佐賀商工ビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

＜開館時間＞
9:30 ~ 18:00
＜閉館日＞
毎週月曜日、祝日